Part 2 実戦ドリル 文法

第11回

12分 /13

問題1 つぎの文の（　　）に入れるのに最もよいものを、1・2・3・4から一つえらびなさい。

❶ あの店のハンバーグは（　　）おいしくて、行くたびに注文してしまう。

1 あまり　2 あまりの　3 あまりにも　4 あまりも

❷ 彼がそんなひどいことを言うなんて絶対にあり（　　）。

1 うる　2 える　3 うない　4 えない

❸ 一生懸命勉強した（　　）大学に合格できた。

1 かぎり　2 以上　3 からして　4 かいあって

❹ 早く帰ろうと思い（　　）、仕事が終わらず、なかなか帰れなかった。

1 つつ　2 抜いて　3 ものの　4 一方で

❺ そんな難しい問題、（　　）っこないよ。

1 でき　2 できる　3 できる　4 できよう

❻ 明日のパーティーは、無理をし（　　）行くつもりです。

1 たきり　2 てでも　3 てこそ　4 もしないで

問題2 つぎの文の＿★＿に入る最もよいものを、1・2・3・4から一つえらびなさい。

❶ そんな ＿＿ ＿＿ ＿★＿ ＿＿ 始めましょう。

1 そろそろ　2 難しい　3 さておき　4 話は

❷ 日本に ＿＿ ＿＿ ＿★＿ ＿＿ ので、ぜひご連絡ください。

1 ご案内します　2 いらっしゃる　3 町を　4 折には

LIVEWORKSHEETS

問題3 つぎの文章を読んで、文章全体の内容を考えて、❶から❺の中に入る最もよいものを、1・2・3・4から一つえらびなさい。

AI*と人間

AIと言えば、将棋でトップクラスのプロに勝ったり、受付から客室案内までの全ての業務をロボットが行うロボットホテルが登場したりと、ユニークな話題で知られる。どちらかというと、まだ自分とはあまり関係ない、エンターテイメントの一つとして存在しているかのように。しかし、私たちは自分でも気がつかないうちにAIを利用している。例えば、スマホの音声アシスタント機能や掃除ロボットなどが［❶］だ。

AIは、膨大なデータから知識を蓄え、その知識を利用して人間のニーズに対応することで、私たちの生活を豊かにしてくれる。［❷］、学習（インプット）とその利用（アウトプット）を人間よりずっと速いスピードでこなすAIに、将来仕事を取られる可能性も否定できない。「［❸］、AIに追い越されることはあるまい」と余裕を持てたのは昔のことだ。

では、そうならないために私たちはどうすればいいのか。それは、人間らしさを高めること［❹］。その一つが「新しいものを創り出すこと」だ。AIにもそのような能力があるが、教わったことのインプットや再生、応用などのほうがはるかに得意だ。むしろ、人間はこれを得意とし、文明を生み、発展させてきた。

次に大切なのが、AIにはない「感情」だ。相手の気持ちをどれだけ理解し、対応できるか。高度に発展したコミュニケーション社会だからこそ、より求められるものだと思う。

これから先、［❺］AIが発達しても、われわれ人間は、人間らしさを失わないようにしたい。

＊ AI：Artificial Intelligence 人工知能

❶ 1 そう　2 そんな　3 みたい　4 よう

❷ 1 しかし　2 ところで　3 また　4 例えば

❸ 1 どうして自分ばかりが　2 こんな自分にもかかわらず
3 まさか自分に限って　4 なぜか自分もかまわず

❹ 1 なのか　2 ではないだろうか　3 だろうか　4 なのだろうか

❺ 1 何度　2 いつか　3 たとえば　4 どんなに

LIVEWORKSHEETS